

2-1. 課題と解決の方向性

(1) 健康・医療・福祉

課題

- ・ やいづ健康マイレージのデジタルサービス化
- ・ 焼津市立総合病院との各種データ連携
- ・ 健康・医療・福祉の情報一元化、重層的な支援
- ・ アナログではなくオンラインによる情報発信
- ・ 医療機関へのオンライン診療やAIを活用した受診の支援
- ・ 高齢者や障がい者、要支援者へのデジタルデバイド対策や社会福祉の充実
- ・ 引きこもり数や市民の食生活など市民生活の実態把握
- ・ 高齢者の活動機会の提供、活動への仲間づくり支援
- ・ 民間事業者との連携強化
- ・ 職員のデジタルスキル向上、デジタル化推進の人材育成

目指す方向性

- ・ 健康状態を把握できる仕組みづくり。
- ・ 健康づくりや介護予防の取り組みが可視化され、市民特典が付与される。
- ・ アプリ等で健診データの確認や、予防接種の予約ができる。
- ・ オンライン診療や医療相談を受けることができる。
- ・ 自分に必要な支援がすぐに受けられる。
- ・ 友だちづくりができる。市民同士で繋がりを持てる。
- ・ 繋がりを持つことで、地域全体で高齢者や要支援者等の見守りができる。

(2) 子育て・教育

課題

- ・ 小中学校の全教室のWi-Fi整備、インフラ整備に伴う学習環境の平準化
- ・ デジタルを活用した学習の拡充
- ・ 相談業務（記録や履歴確認など）におけるデジタル活用
- ・ 学校と保護者間連絡や個別通知のデジタル化
- ・ 外国人児童の受け入れ促進、おたよりの多言語対応
- ・ 待機児童の解消、保育園の充足、保育士の確保
- ・ 保育園空き状況の自動通知
- ・ 放課後児童クラブへの給食提供
- ・ デジタルコンテンツによるふるさと教育実施、郷土愛の醸成

目指す方向性

- ・ すべての家庭でオンライン環境が整っている。
- ・ AIを活用したデジタル学習ができる。
- ・ 地域の人が学校に入り、子どもたちの学びに関われる。
- ・ 学校とオンラインでやり取りができる。
- ・ 子育て世帯が困ったときにオンラインで相談したり、身近に頼れる人がいる。
- ・ 共働き家庭の子が安心して過ごせる放課後の居場所がある。
- ・ デジタルを使った工場見学など、本市の学びの情報が簡単に手に入る。

2-1. 課題と解決の方向性

(3) 生きがい・文化・スポーツ

課題

- ・ 施設予約状況の見える化、システムの運用見直し、利便性向上
- ・ 自宅にいながら施設利用手続きや活動ができる仕組みづくり
- ・ デジタル市民講座やデジタル回覧板の検討
- ・ メタバースなどデジタル空間を活用したイベントや資料閲覧の実施
- ・ 小泉八雲のブランド化、デジタルアーカイブの推進
- ・ スポーツのきっかけづくりや仲間づくり支援
- ・ 地域交流センターの有効活用に向けた認知度と利用率向上
- ・ 気軽に多世代交流できるコミュニティづくり
- ・ 市主催イベントへの若者の参加促進
- ・ 若者、働き手、高齢者が、支え合う機会が少ない

目指す方向性

- ・ 市役所に行かなくても、家にいながら施設利用手続きができる。
- ・ 仮想空間でスポーツや歴史資料などが楽しめる。
- ・ 市民のだれもが快適にスポーツを楽しんだり、海釣りや山登りにチャレンジできる。子どもは外で元気いっぱい遊べる。
- ・ 高齢者や同じ趣味の人が気軽に集い、世代を超えて交流できる場所、仕組みがある。
- ・ 若者が焼津に集まり、長く住みたいと思えるまちづくりがされている。

(4) 産業・観光

課題

- ・ 焼津駅前の活性化
- ・ 漁港や魚食を活かした観光コース立案、観光案内人の整備
- ・ 水産業や産業観光のコンテンツ作り、焼津ならではの名産品や体験価値付与
- ・ ビジネスマッチングなど企業間交流、焼津ブランド価値向上
- ・ 点在する観光施設への移動手段確保
- ・ 事業用地の確保、商業施設や大学、スタートアップ企業等の誘致
- ・ 市内外企業のマッチングによる地場産業の強化・拡大
- ・ ふるさと納税データの活用、地域ポイント・地域通貨の検討

目指す方向性

- ・ 焼津駅から焼津漁港への人通りに活気がある。
- ・ 観光客が多く、賑わいのあるまちづくり。SNSで焼津が話題になっている。
- ・ デジタルを活用して、焼津ならではの食や文化体験を提供する。
- ・ シェアサイクルなどの拠点がたくさんあり、快適・安全に移動できる。
- ・ 地域密着だけでなく、地元企業が世界に向けてビジネスを展開し、産業の新陳代謝が進んでいる。
- ・ データ利活用や6次産業化が進み、地元経済が潤っている。

2-1. 課題と解決の方向性

(5) 防災・都市・環境

課題

- ・ 統合GIS、被災者支援システム更新に伴い、災害・避難情報発信の効率化
- ・ 災害時パトロールの安全性の確保
- ・ 河川や水路の異常検知とWeb情報開示
- ・ 混雑や工事、浸水被害による道路状況のリアルタイム通知
- ・ 建物管理や、ごみ集積所・不法投棄場所の管理などデジタル活用の検討
- ・ ミニステーションの全日開放や回収物拡大、喫煙禁止エリア検討
- ・ ごみ分別のAI活用、ごみポイ捨て監視、ごみの自動収集
- ・ 交通手段の多様化、駐輪場不足解消、バス路線維持確保
- ・ 大井川地区の交通の便を改善

目指す方向性

- ・ カメラなどを活用し、災害パトロール時における安全を確保する。
- ・ 気象及び洪水情報の高度化に伴う、最適な避難所案内・災害情報を地図上で可視化できる。
- ・ 自動運転バスの周回、小型タクシー、シェアサイクルなど市内の移動交通を確保
- ・ 道路河川の異常検知システムによる監視により、環境美化が進む。
- ・ AIを活用したごみの分別やごみ量計測により排出量を見える化し、CO₂の排出抑制、循環型社会を構築する。

(6) 市民協働・DX・行政運営

課題

- ・ 庁内システムの統一もしくは庁内情報を連携し共有、見える化を推進
- ・ 申請業務、システム操作マニュアルのデジタル化、オンライン相談の実現
- ・ パーソナルデータの利活用
- ・ 通信環境・デジタルインフラの整備やデジタルリテラシーの向上
- ・ 自治会区域等を示したデジタル地図、電子回覧板による自治会員の負担軽減
- ・ まちづくりコーディネーターの育成
- ・ 通訳・翻訳業務のデジタル活用
- ・ 広報紙やSNSコンテンツの質向上、アイデア出しのAI活用
- ・ 多様性の受け入れ、男女共同参画意識向上
- ・ 職員の市民協働意識向上

目指す方向性

- ・ 部署に捉われない働き方によって、庁内コミュニケーションをより円滑にする。
- ・ 市役所に行かなくても、家にいながら各種申請・手続きや活動ができる。
- ・ 庁内の職員が誰でも使える多言語翻訳サービスがある。
- ・ 市民一人ひとりに最適なお知らせ、行政情報の提供ができる。
- ・ 市民活動に対する興味関心が増え、市民活動が活性化している。
- ・ データに基づいた政策決定が可能になる。